



# MIXER

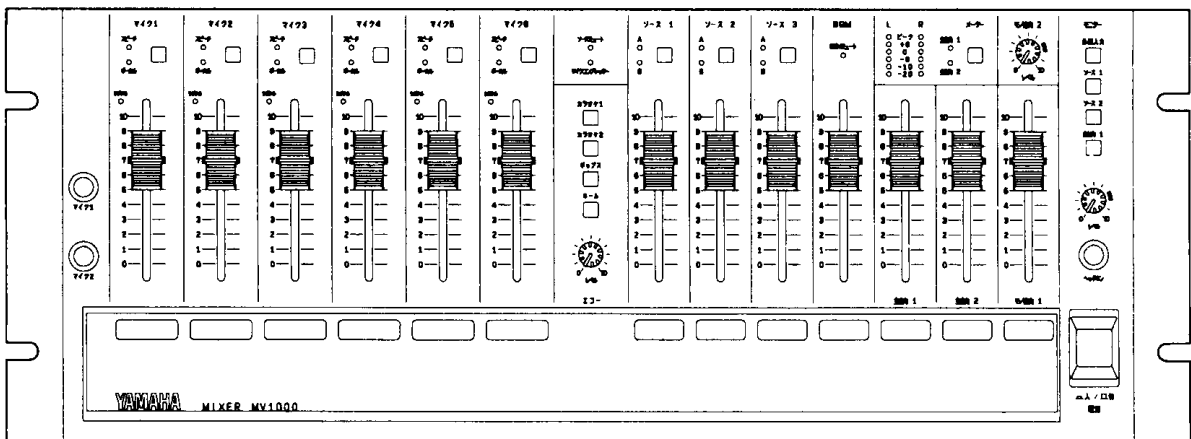
# MV1000

## 取扱説明書

このたびは、YAMAHAミキサーMV1000をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

MV1000は、どなたでも簡単に扱える操作性とパーティーや会合に便利な機能を調和させたミキサーです。結婚式場、宴会場、飲食店やブティックなど、特に業務用として最適です。

MV1000の性能を十分に発揮させると共に、いつまでも支障なくお使いいただくため、ご使用前にこの説明書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書とともに保管してください。



# ！安全上のご注意 —安全にお使いいただくため—

安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みください。またお読みになったあと、いつでも見られるところに必ず保存してください。

**絵表示** この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

- ⚠：注意(危険・警告を含む)を促す事項
- 🚫：決しておこなってはいけない禁止事項
- ：必ずおこなっていただく強制事項

**警告** この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

設置されるとき	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● この機器の設置は、専門の施工業者にご依頼ください。</li> <li>● この機器は<b>AC100V</b>専用です。それ以外の電源(AC200V、船舶の直流電源など)では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</li> <li>● この機器に<b>水</b>が入ったり、機器がぬれたりしないようご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天・降雪時や海岸・水辺での使用は特にご注意ください。</li> <li>● <b>電源コード</b>の上に重い物をのせないでください。コードに傷が付くと、火災・感電の原因となります。とくに、敷物などで覆われたコードに気付かずに重い物を載せたり、コードが本機の下敷きになることのないよう、十分にご確認ください。</li> </ul>
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>雷</b>が鳴りだしたら、早めに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。</li> </ul> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">プラグをコンセントから抜く</p>
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 落雷のおそれがあるとき、電源プラグが接続されたままならば、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</li> </ul> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">接触禁止</p>
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● この機器を<b>改造</b>しないでください。火災・感電の原因となります。</li> <li>● この機器の<b>カバー</b>は絶対に外さないでください。感電の原因になります。内部の点検・整備・修理が必要と思われるときは、お買上げ販売店にご依頼ください。</li> </ul> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">分解禁止</p>
使用中に異常が発生したとき	
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常がみとめられたときは、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、異常がおさまるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。異常状態のままで使用すると、火災・感電の原因となります。</li> </ul> </div> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 内部に水などの<b>異物</b>が入った場合は、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのあと、販売店にご連絡ください。そのままで使用すると、火災・感電の原因となります。</li> </ul> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">プラグをコンセントから抜く</p>
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 断線・芯線の露出など、<b>電源コード</b>が傷んだら、お買上げ販売店に交換をご依頼ください。そのままで使用すると、火災・感電の原因となります。</li> </ul> </div> </div>
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 万一、この機器を落としたり、キャビネットを<b>破損</b>した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</li> </ul> </div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">プラグをコンセントから抜く</p>
ご使用になるとき	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● この機器の上に<b>水</b>などの入った容器や小さな<b>金属物</b>を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品なども同様です。</li> <li>● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因になります。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● この機器の<b>ACアウトレット</b>が供給できる電力は300Wまでです。接続する装置の消費電力の合計がそれを越えないようにしてください。越えた状態で使用すると、火災の原因になります。</li> </ul>

# ⚠️ 注意

この欄に記載されている事項を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。

設置される時	ご使用になるとき
 <ul style="list-style-type: none"> <li>調理台や加湿器のそばなど、<b>油煙</b>や<b>漏気</b>が当たるような場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</li> <li>ぐらついた台の上や傾いたところなど、<b>不安定</b>な場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。</li> <li><b>電源コード</b>を熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因になります。</li> <li>窓を締め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に<b>温度</b>が高くなる場所に放置しないでください。火災の原因となることがあります。</li> <li><b>湿気</b>や<b>ほこり</b>の多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</li> <li><b>濡れた手</b>で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。</li> <li><b>電源プラグ</b>を抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。必ず<b>プラグ</b>を持ってください。コードを引っ張ると、電源コードが傷ついて、火災・感電の原因となることがあります。</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>オーディオ機器・スピーカーなどの機器を接続する場合は、接続するすべての機器の<b>電源</b>を切ってください。それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のコードを使用して接続してください。</li> <li><b>電源</b>を入れる前に音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li><b>お子様</b>が補助パネル部に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li><b>旅行</b>などで、長期間この機器をご使用にならないときは、安全のため、必ず<b>電源プラグ</b>をコンセントからぬいてください。火災の原因となることがあります。</li> </ul> <p>プラグをコンセントから抜く</p>
 <ul style="list-style-type: none"> <li>機器を<b>移動</b>する場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</li> </ul> <p>プラグをコンセントから抜く</p>	<h3 data-bbox="1002 814 1257 848">お手入れについて</h3>  <ul style="list-style-type: none"> <li><b>お手入れ</b>の際は、安全のため、電源プラグをコンセントからぬいてください。感電の原因となることがあります。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な<b>機器内部の掃除</b>が必要です。長いあいだ掃除をせずに、機器の内部にほこりがたまってきたままにしておくと、火災や故障の原因となることがあるからです。掃除および費用については、お買上げ販売店にご相談ください。掃除の間隔は1年に一度くらい、時期は湿気の多くなる梅雨の前が、もっとも効果的です。</li> </ul>

## ！ 使用上のご注意 —正しくお使いいただくため—

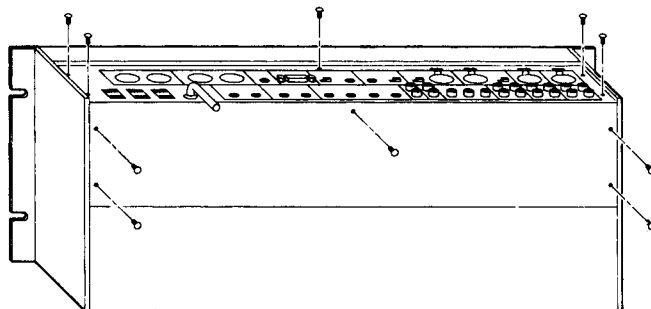
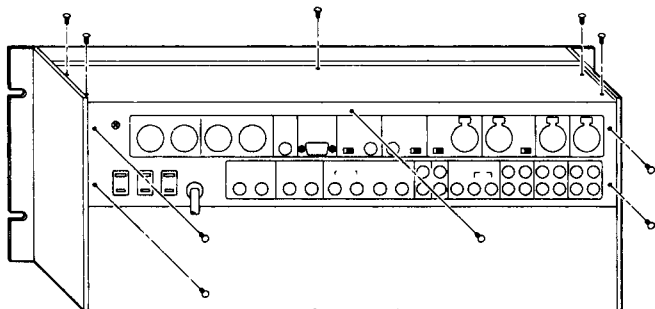
お手入れについて	
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ フェーダーに、オイル・グリスや接点復活剤などを補給しないでください。電気接点の接触に悪影響を及ぼすことがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ スイッチ・ボリューム・エンコーダー・接続端子などの部品は、<b>摩耗部品</b>といわれ、使用とともに性能が劣化します。劣化の進行度合は、使用環境などによって大きく異なりますが、劣化そのものを避けることはできません。劣化した<b>摩耗部品</b>の交換は、お買上げ販売店へご相談ください。</li> </ul>

# 取付位置の変更

この機器は、設置の自由度を増すために、次の2つの部材の取付が変更可能な構造になっています。変更は、この機器を設置する施工業者にご依頼ください。

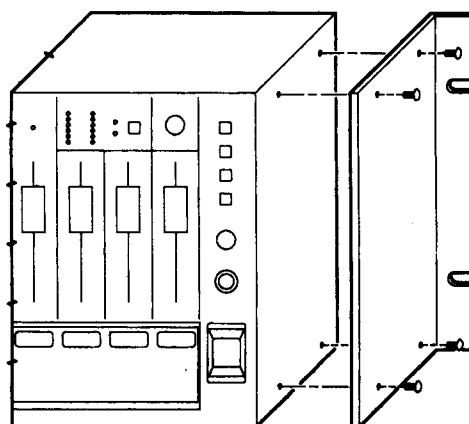
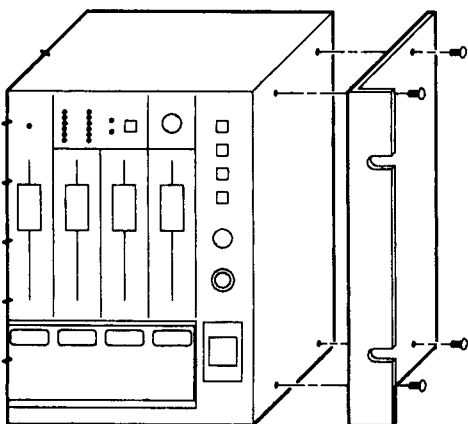
## ■ 接続パネルの取付け位置の変更

接続パネルは出荷時、背面に取り付けられていますが、上面に付け変えることも可能です。



## ■ ラック用ねじ止め部分の取付け位置の変更

ラック用ねじ止め部分は出荷時前面の左右に取り付けられています。しかし、本機を設置する際に不都合があったときは背面の左右にくるように付け変えられます。



## MV1000の特長と概要

- マイクロホンや楽器をはじめ、オーディオ機器やAV機器を数多く接続できます。6系統のマイクロホンと7系統（ソース6系統とBGM）のオーディオ機器が接続できます。
- 主要なボタンやツマミは日本語で表示し、大きくしてあります。これにより、操作に不慣れな方でも安心して扱える、イージーオペレーションを実現しています。
- ひとつのマイクロホンをスピーチ用とボーカル用とに切り換えて使うことができます。例えば、ボーカル用では、エコーを効かせて声に潤いを与える使い方があります。
- エコーにはカラオケやポップスなど4種類あり、音楽にあわせて最適なものを選ぶことができます。
- ソースミュート機能により、話をしている間はソースとBGMの音量を自動的に下げることができます。
- BGMミュート機能により、ソースからの入力と同時にBGMを自動的にカットできます。
- EXTERNAL MIXER IN端子に拡張マイク入力ユニットEXMV1000（オプション）を接続することにより、マイク2系統を簡単に増やせます。
- 2種類のAV機器を接続するためのVIDEO端子が装備されています。音声と同時に映像も切り換えられます。
- 豊富な出力端子を装備しています。
- ミキシングした信号など、さまざまな信号をステレオヘッドホンでモニターできます。
- レベルメーターを装備しており、出力レベルの設定が確実にこなえます。
- 3系統のAC OUTLETSを備え、合計300 Wまでの外部機器に電源を供給できます。
- 薄型設計で施工時に場所を選びません。また、設置場所にあわせて、出荷時背面に取り付けられている接続パネルを上面に付け替えたり、ラック用ねじ止め部分を背面に付け替えたりできます。

## 目次

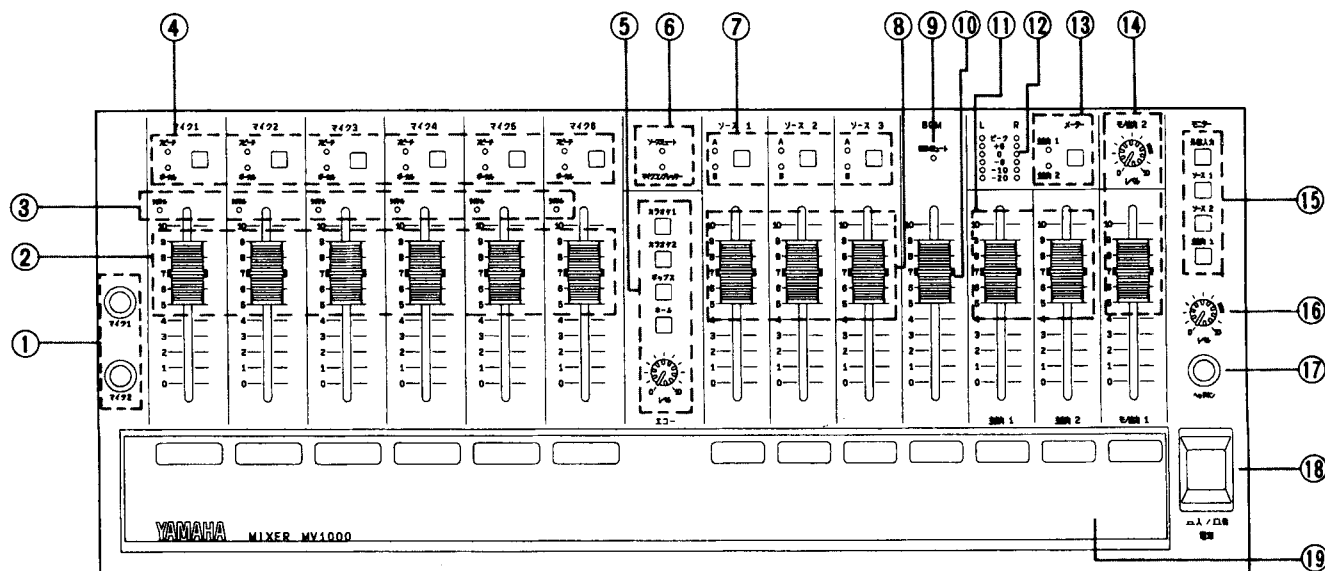
使用上のご注意	1
取付位置の変更	2
各部の名称と機能	4
メインパネル	4
補助パネル	6
接続パネル	7
MV1000の基本的な使い方	8
初期セッティング	8
通常の使用	9
MV1000の便利な使い方	10
ノイズゲート	10
（一定以上の入力からマイクが機能する）	10
マイクコンプレッサー	10
（突然の大音量を自動的に抑制する）	10
ソースミュート	10
（スピーチ時に自動的にソースとBGMの音量を下げる）	10
BGMミュート	10
（SOURCEを優先して自動的にBGMを切る）	10
セットアップ例	11
仕様	12
一般仕様	12
コントロール	13
入力仕様	14
出力仕様	14
コネクターの極性	15
寸法図	15
ブロック&レベルダイアグラム	16

# 各部の名称と機能

前面にある操作パネルは、上部の“メインパネル”とシーリングカバー内の“補助パネル”に分かれ、基本的な機能はメインパネルのみで操作できます。

また、接続端子は、背面に“接続パネル”としてまとめられています。接続パネルは、上向きに付け変えることもできます。取付け位置の変更については、2ページの「取付方法の変更」に記載されています。

## ■ メインパネル



### ① マイク1、マイク2ジャック

マイクロホンを接続する平衡（バランス）型ジャックです。  
このジャックに接続したマイクロホン1、2は、接続パネルのマイク1、2にそれぞれ優先します。

### ② マイクフェーダー

各マイク（1～6）の音量を調整します。

### ③ シグナルインジケータ

各マイク（1～6）に接続されたマイクロホンに音声が入ると点灯して知らせます。音声が消えてしばらくすると消灯します。

### ④ スピーチ／ボーカル切換えスイッチとインジケータ

各マイク（1～6）を、スピーチ用として使用するか、ボーカル用として使用するかを切り換えます。  
選択の状態は左横のインジケータが点灯して知らせます。

### ⑤ エコー選択スイッチとレベルコントロール

ボーカル用に設定されているマイクの音声にかかるエコーの種類を選択します。実際に試して効果を確認してください。

- カラオケ1 … カラオケ全般に適しています。
  - カラオケ2 … カラオケ1よりクリアーなエコーです。
  - ポップス … ポップス系のカラオケに適しています。
  - ホール …… 音楽ホールの響きになります。
- エコーの音量はレベルコントロールで調整します。  
全くエコーをかけないときは0の位置にしてください。

### ⑥ マイクコンプレッサーインジケータとソースミュートインジケータ

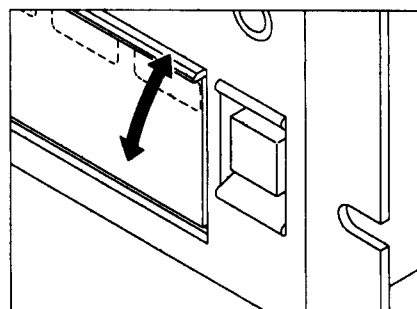
マイクコンプレッサー機能またはソースミュート機能が働くと点灯します。  
詳しくは10ページの「MV1000の便利な使い方」に記載されています。

- ⑦ **ソースA/B切換えスイッチとインジケータ**  
 ソース1、2、および3には、それぞれAとBの2系統の外部機器を接続できます。どちらの系統の入力を選択するかを切り換えます。選択の状態は左横のインジケータが点灯して知らせます。  
 なお、ソースとは本機に接続されているCDプレーヤーのような音楽などを再生する機器を指します。
- ⑧ **ソースフェーダー**  
 ソース1、2、および3の音量をそれぞれ調整します。
- ⑨ **BGMミュートインジケータ**  
 BGMミュート機能が働くと点灯します。  
 詳しくは10ページの「MV1000の便利な使い方」に記載されています。
- ⑩ **BGMフェーダー**  
 BGMの音量を調整します。
- ⑪ **主出力1、主出力2フェーダー**  
 主出力1、2の音量をそれぞれ調整します。
- ⑫ **レベルメータ**  
 MAIN OUTから出力する音のレベルを表示します。
- ⑬ **レベルメータ切換えスイッチとインジケータ**  
 主出力1、2のどちらの状態をレベルメータに表示させるかを切り換えます。  
 選択の状態は左横のインジケータが点灯して知らせます。
- ⑭ **モノ出力1フェーダーとモノ出力2レベルコントロール**  
 モノ出力1、2の音量をそれぞれ調整します。

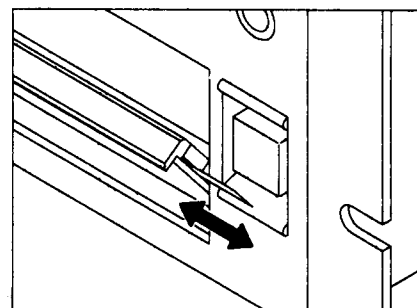
- ⑮ **モニター選択スイッチ**  
 モニター（入力中や出力中の音声の確認）したい音源を選択します。ここで選択した音源は、ヘッドホンで確認できるほか、MONITOR OUTからも出力されます。
- 外部入力 … EXTERNAL MONITOR INに入る音を聴くことができます。
  - ソース1 … SOURCE1に入る音を聴くことができます。
  - ソース2 … SOURCE2に入る音を聴くことができます。
  - 主出力1 … MAIN OUT1から出る音を聴くことができます。

この4個のスイッチは連動しており1個のスイッチを押すとそれまで押されていたスイッチははね上がりOFFになります。強制的に2つ以上のスイッチを押すと発振する場合等がありますので押さないで下さい。

- ⑯ **モニターレベルコントロール**  
 ヘッドホンの音量とMONITOR OUTから出力されるモニター音量を調整します。
- ⑰ **ヘッドホンジャック**  
 ヘッドホンを接続します。  
 ステレオヘッドホンをご使用ください。
- ⑱ **電源スイッチ**  
 “入”にすると電源が入り、ソースA/Bインジケータ⑦などが点灯します。  
 また、接続パネルのAC OUTLETSに接続した外部機器にも電源が供給されます。
- ⑲ **シーリングカバーとチャンネルラベルカード**  
 上部に指を掛けて手前に引けば開けられます。



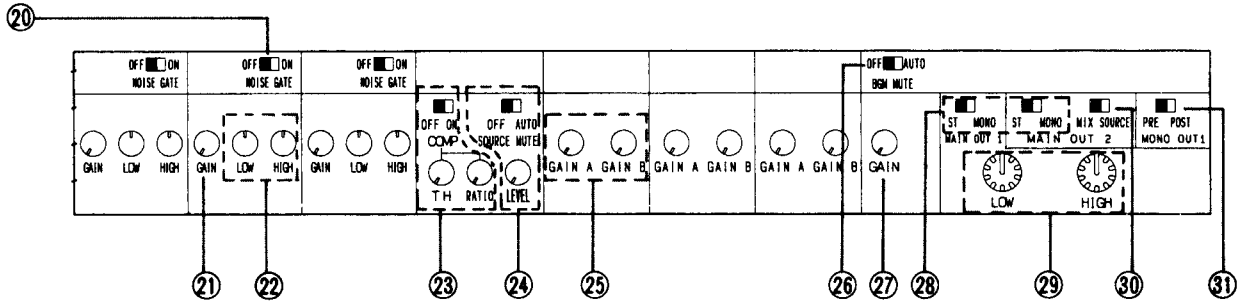
チャンネルラベルカードを引き抜き、付属のシールを所定の位置に貼れば、マイクやソースの種類を表示できます。



## ■ 補助パネル

シーリングカバー内にあり、特別な機能の選択や使用環境に適した高度な音の調整をおこないます。

⑳、㉑、㉒、㉓、および㉔についての詳しい内容は、10ページの「MV1000の便利な使い方」に記載されています。



### ㉑ NOISE GATEスイッチ

ノイズゲート機能の“ON”と“OFF”を切り換えます。

### ㉒ マイクGAINコントロール

各マイク（1～6）の入力感度を調整します。

-60 dB～-16 dBの範囲で変更できます。

なお、接続パネルのPAD（20 dB）を使用することにより、マイク3～6の可変範囲は-40 dB～+4 dBとなります。

### ㉓ マイク用イコライザー（LOW、HIGH）

マイクの音質を調整します。

LOW（100Hz）とHIGH（10kHz）を基準として、低域・高域のレベルを±15 dBの範囲で強調したり減衰したりすることができます。

### ㉔ マイクコンプレッサー（COMP、TH、およびRATIO）

マイクコンプレッサー機能の“ON”と“OFF”を切り換えます。

THでスレッシュホールドレベルを、RATIOで圧縮率をそれぞれ調整します。

### ㉕ SOURCE MUTEスイッチとLEVELコントロール

ソースミュート機能の“AUTO”と“OFF”を切り換えます。

また、ミュートされたソースのレベルを調整します。

### ㉖ ソース用GAINコントロール

ソース1、2、および3それぞれについて、A、Bの入力感度を調整します。

-20 dB～+4 dBの範囲で変更できます。

### ㉗ BGM MUTEスイッチ

BGMミュート機能の“AUTO”と“OFF”を切り換えます。

### ㉘ BGM用GAINコントロール

BGMの入力感度を調整します。

-20 dB～+4 dBの範囲で変更できます。

### ㉙ MAIN OUT1、2のST/MONO切換えスイッチ

主出力をステレオ出力（ST）とモノラル出力（MONO）のどちらにするかを切り換えます。

### ㉚ MAIN OUT1用イコライザー（LOW、HIGH）

主出力1の音質を調整します。

LOW（100Hz）とHIGH（10kHz）を基準として、低域・高域のレベルを±15 dBの範囲で強調したり減衰したりすることができます。

### ㉛ MAIN OUT2のMIX/SOURCE切換えスイッチ

主出力2を、マイクとソースの信号を混ぜた出力（MIX）とするか、ソースの信号のみの出力（SOURCE）とするかを切り換えます。

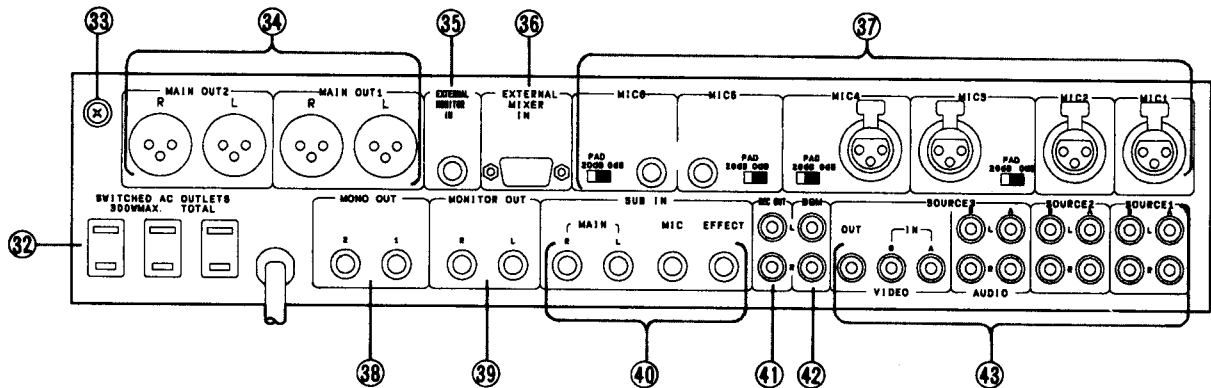
### ㉜ MONO OUT1のPRE/POST切換えスイッチ

モノ出力1を、主出力1フェーダー⑪による調整前の信号（PRE）で出力するか、調整後の信号（POST）で出力するかを切り換えます。



## ■ 接続パネル

接続端子の規定出力レベル、適合インピーダンス、および使用コネクタについては、14ページの「入力仕様」または「出力仕様」に記載されています。



### ③② SWITCHED AC OUTLETS

3種類の外部機器のACプラグを接続できます。スイッチ連動式ですから、本機の電源スイッチを入れると外部機器に電源が供給されます。消費電力の合計が300 Wを超えないようにしてください。

### ③③ アース端子

アース用のネジです。ハムや雑音が生じる場合には、この端子により大地アースを施すか、パワーアンプ等のシャーシと接続してみてください。

### ③④ MAIN OUT1、MAIN OUT2

主出力音声を出力します。メインスピーカーを駆動するパワーアンプを接続してください。

### ③⑤ EXTERNAL MONITOR IN

外部機器のモニター専用端子です。

### ③⑥ EXTERNAL MIXER IN

オプションの拡張マイク入力ユニットEXMV1000を接続すれば、2系統のマイク入力が増設できます。

### ③⑦ MIC

マイクロホンを接続します。

#### ● MIC1、MIC2

メインパネルのマイク1、マイク2ジャック①が優先されるため、メインパネルのジャックにプラグが差し込まれていると、ここからの入力は供給されません。

#### ● PAD切換えスイッチ

マイクレベル (0 dB) とラインレベル (20 dB) を切り換えてワイヤレスマイクや楽器を接続することができます。

### ③⑧ MONO OUT1、MONO OUT2

主出力をモノラル音声で出力します。

### ③⑨ MONITOR OUT

モニター音声を出力します。

### ④⑩ SUB IN

本機をもう1台増設する場合などに、機器を接続するための端子です。

### ④⑪ REC OUT

録音用のテープデッキなどを接続します。

### ④⑫ BGM

BGM用に有線放送や音楽を再生する機器を接続します。

### ④⑬ SOURCE

ソース用に音楽を再生する機器を接続します。

#### ● SOURCE1、SOURCE2

2種類のオーディオ機器がそれぞれ接続できます。

AとBはメインパネルのソースA/B切換えスイッチ⑦で切り換えます。

#### ● SOURCE3

2種類のオーディオ機器またはAV機器が接続できます。また、VIDEO OUT端子により映像信号をモニター画面へ出力できます。

AとBはメインパネルのソースA/B切換えスイッチ⑦で切り換えます。このとき、映像も同時に切り換わります。

# MV1000の基本的な使い方

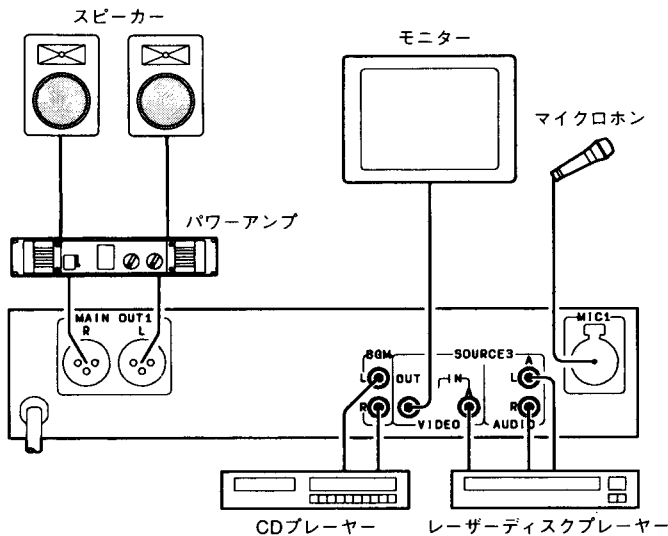
この章では、宴会場での簡単な使用状況を想定して本機の基本的な操作手順を説明します。操作はメインパネルのみを使用しますので、お手持ちの機器を使って実際に操作してみてください。

## ■ 初期セッティング

ご使用になる機器が決定したら、MV1000にそれらの機器を接続してください。接続が終了したら電源を入れ、音量を調整して、すべてのセッティングは完了です。この後は、新たな機器を追加しない限り、電源を入れるたびに音量を調整する必要はありません。

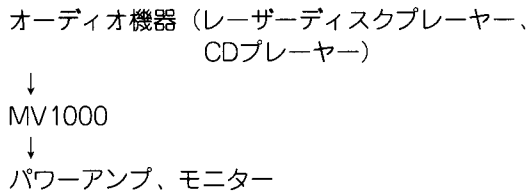
### ● 使用機器と接続の例

本機に次のような機器が接続されていることを想定していません。



### ● 電源を入れる

電源は入力機器側から順に入れてください。この例の場合は次の順序になります。



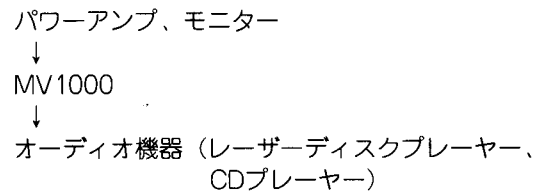
### ● 音量を調整する

出力される音量を調整します。主出力1フェーダーを目盛7に合わせ、他のフェーダーを目盛0に合わせます。

1. マイク1フェーダーの目盛を7に合わせます。
2. マイクホンに向かって話し、レベルメーターの表示を確認します。大きな声を出したときに、レベルメーターの“ピーク”が点灯するくらいであれば、GAINコントロールの設定は適正です。  
もし、次の条件にあてはまる場合は、aのときは右に、bのときは左にGAINコントロールを回して適正な位置に調整してください。  
a: 大きな声を出しても“ピーク”が点灯しないとき  
b: それほど大きな声を出さなくても“ピーク”が点灯するとき
3. ソース3のレーザーディスクプレーヤーとBGMのCDプレーヤーについても、それぞれのフェーダーとGAINコントロールを前記1と2の手順で調整します。どちらの場合も“大きな声”の代わりに“大信号レベル”が基準となります。
4. パワーアンプのレベルを上げて適正な音量にします。  
マイク1、ソース3、およびBGMの音のバランスはそれぞれのフェーダーで設定します。

### ● 電源を切る

MV1000を終了するときは、電源を入れたときと逆の順序に切って行ってください。この場合は次の順序になります。



## ■ 通常の使用

初期セッティングが済むと、後は実際にMV1000を使うことになります。

### ● 電源

セッティングのときと同様に、電源は入力機器側から順に入れ、その逆の順序で切ります。

### ● 基本的な操作

MV1000の基本的な使い方には、マイクで話をする、音楽を流す、カラオケをするなどがあります。これら3つの操作の組み合わせにより、ほとんどの状況に対応できます。

#### 司会者が話をするとき

司会者がマイク1を使って話をしようとしています。マイク1のスピーチ/ボーカル切換えスイッチを“スピーチ”にしてお話してください。これで、スピーチに適したクリアな音質となります。アナウンスが主出力1のスピーカーから会場に流れます。

#### 会場に音楽を流すとき

会場は食事中です。BGMに接続されているCDプレーヤーを再生してください。主出力1のスピーカーから会場に静かな音楽が流れます。

#### カラオケを歌いエコーを効かせるとき

興がのってきて来賓の一人が自慢ののどを聴かせようとしています。マイク1と、ソース3のレーザーディスクプレーヤーを使って、カラオケを主出力1のスピーカーから会場に流してみましよう。

1. マイク1のスピーチ/ボーカル切換えスイッチを“ボーカル”にしてください。これで、エコーを効かせることができるようになります。
2. レーザーディスクプレーヤーはソース3のAに接続されています。ソース3のソースA/B切換えスイッチを“A”にしてください。
3. レーザーディスクを再生します。
4. 歌声にエコーを効かせたいときは、エコーのレベルコントロールを0より大きくします。エコーの種類はエコー選択スイッチで選択してください。演歌なら“カラオケ1”、ポップスなら“ポップス”が良いでしょう。全くエコーをかけないときは、レベルコントロールを0の位置にしてください。エコーは、“ボーカル”となっているすべてのマイクに対して同時に働きます。

1~4の操作はすべてのマイクロホンとソースに対して同様です。

# MV1000の便利な使い方

補助パネルには、使用環境に適した高度な音の調整をおこなえる機能がまとめられていますが、簡単な操作でお使いいただけるとても便利な機能も幾つか含まれています。その機能とは、ノイズゲート、マイクコンプレッサー、ソースミュート、およびBGMミュートの4つです。ここでは、MV1000を宴会場で使用するという想定のもとにこれらの便利な機能について解説します。

## ■ ノイズゲート（一定以上の入力からマイクが機能する）

使われていないマイクが不要な音を拾ってしまうことがよくあります。これを防ぐためには、その都度マイクのスイッチを切るか、MV1000のマイクフェーダーを0にしなければなりません。このようなわずらわしい操作から解放してくれる機能にノイズゲートがあります。

これは、マイクに向かって話すなど、ある一定レベル以上の音量がマイクに入力されたときのみ自動的にマイク入力が働き、それ以外するとき（例えば、周囲の雑音など）は働かないというものです。これによりミキサーの操作が大幅に減り、また、ハウリングを抑制する効果もあります。

設定するときは、補助パネルのNOISE GATEスイッチを“ON”側にします。なお、特に小さな声でお話になるときは、“OFF”にしておくことをお勧めします。

## ■ マイクコンプレッサー（突然の大音量を自動的に抑制する）

スピーチやカラオケで突然大声になった場合、そのまま増幅されてスピーカーから聞こえたのではたまりませんから、素早く音量を下げる必要があります。しかし、実際にはそのような操作は大変難しく、音量を下げたときは既に手遅れというケースが大半でしょう。このような場合のためにマイクコンプレッサーがあります。

これは、一定以上の入力レベルがあったとき出力レベルを制限する機能です。

設定するときは、補助パネルのCOMP（マイクコンプレッサースイッチ）を“ON”側にします。

マイクコンプレッサー機能が働き始める入力レベルの設定はTH（マイクコンプレッサースレッシュホールドコントロール）で調整し、音量を抑制する圧縮率はRATIO（マイクコンプレッサーレシオコントロール）で調整します。なお、RATIOを左一杯に回すと音量は全く抑制されず（最小圧縮率 1:1）、右に回すほど大きく抑制されます（最大圧縮率 ∞:1）。

## ■ ソースミュート（スピーチ時に自動的にソースとBGMの音量を下げる）

ソースやBGMから会場に音楽が流れている最中に司会者や来賓が話を始めてしまい、よく聞き取れないということがあると思います。このようなときは、ソースやBGMのフェーダーを下げるか、司会者や来賓の使っているマイクのフェーダーを上げるかする（またはその両方をする）必要があります。これでは、安心して本機の前を離れることができません。このような場合のためにソースミュートがあります。

これは、マイク1またはマイク2に音声が入ると、自動的にSOURCE1、2、および3と、BGMの音量を下げる機能です。ただし、ソースミュート機能が働くのはマイク1、2の入力に対してのみで、マイク3～6の入力に対しては働きません。マイクロホンからの入力がしばらく途絶えると、ソースとBGMの音量は元に戻ります。

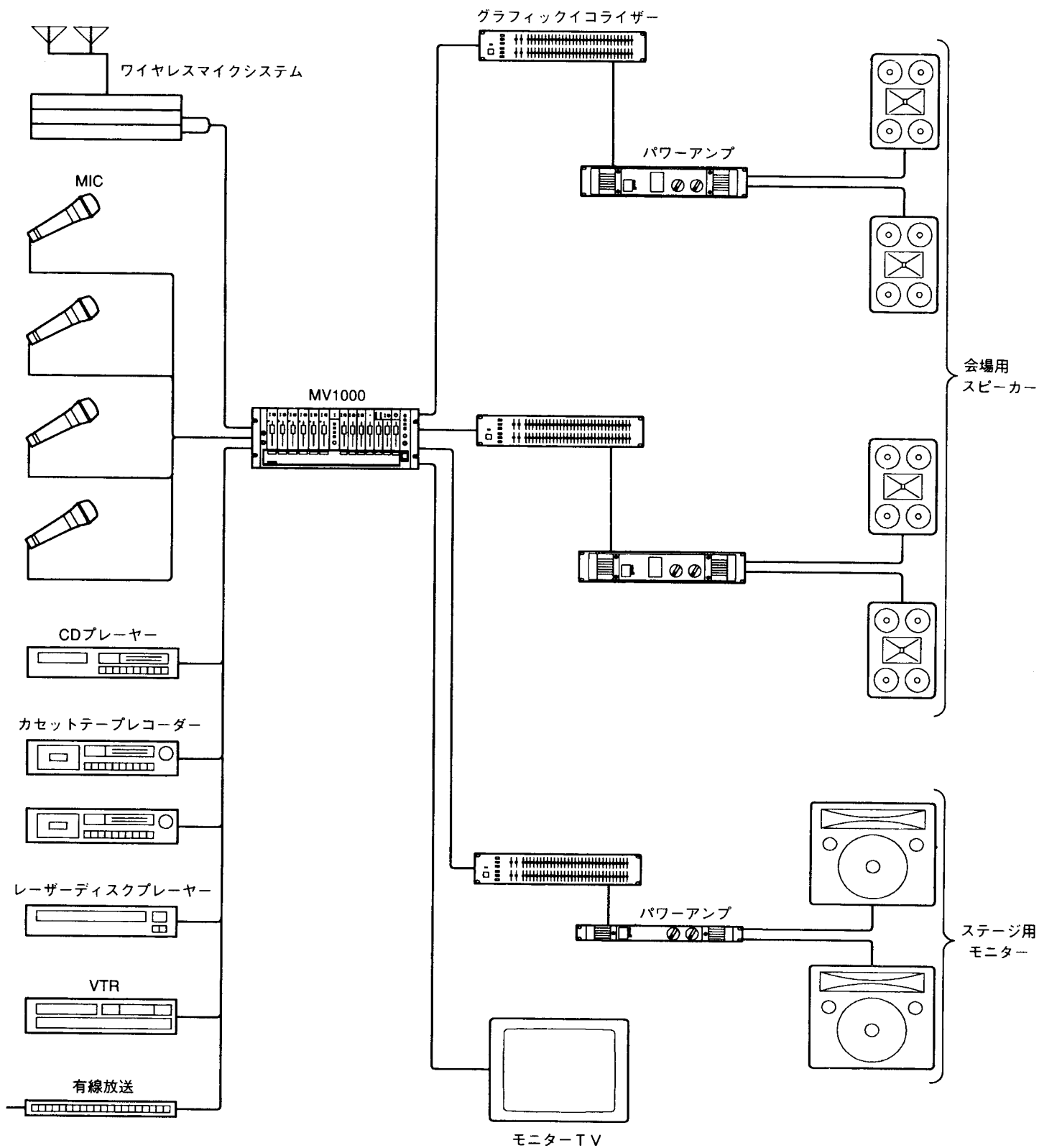
設定するときは、補助パネルのSOURCE MUTEスイッチを“AUTO”側にします。ソースとBGMの音量をどの程度まで下げるかはレベルコントロールで調整します。レベルコントロールを左一杯に回すと最も下がり、右一杯に回すと下がりなくなります。

## ■ BGMミュート（SOURCEを優先して自動的にBGMを切る）

BGMが流れていて、新郎新婦の登場のタイミングに合わせて“結婚行進曲”を流したいことがあります。このようなときは、ソースからの入力があると同時に、BGMのオーディオ機器を止めるか本機のBGMフェーダーを0にする必要があります。しかし、ソースの音声をモニターしておく必要もありますし、タイミングよく音楽を入れ換えるのは容易ではありません。このような場合のためにBGMミュートがあります。これは、ソース1、2、および3のいずれかに入力があると、自動的にBGMの音量を0にする機能です。ただし、ソースからの入力がしばらく途絶えると、BGMの音量は元に戻ります。

設定するときは、補助パネルのBGM MUTEスイッチを“AUTO”側にします。

# セットアップ例



# 仕様

## ■ 一般仕様

<b>周波数特性</b>	20 Hz~20 kHz +1,-3 dB	
@MAIN OUT	600 Ω,+4 dB	
@REC OUT	47 kΩ,-10 dB	
@others	10 kΩ,+4 dB	
<b>全高調波歪率</b>	0.1 %以下(20 Hz~20 kHz)	
@MAIN OUT	600 Ω,+14 dB	
@REC OUT	47 kΩ,-10 dB	
@others	10 kΩ,+14 dB	
出力フェーダー	→ nominal	
1つの入力フェーダー	→ nominal	
<b>ハム&amp;ノイズ*1</b>		
MIC IN → MAIN OUT	-128 dB	入力換算ノイズ
MAIN OUT, MONO OUT	-97 dB	残留ノイズ
MONITOR OUT		
MAIN OUT, MONO OUT	-80 dB(84 dB S/N)	
	マスタフェーダー	→ nominal
	全チャンネルフェーダー	→ minimum
MAIN OUT, MONO OUT	-64 dB(68 dB S/N)	
	マスタフェーダー	→ nominal
	1つのチャンネルフェーダー	→ nominal
<b>最大電圧利得</b>		
84 dB	MIC IN → MAIN OUT, MONO OUT 1	
80 dB	MIC IN → MONO OUT 2, MONITOR OUT	
44 dB	SOURCE IN → MAIN OUT, MONO OUT 1	
40 dB	SOURCE IN → MONO OUT 2, MONITOR OUT	
14 dB	SUB IN → MAIN OUT	
<b>クロストーク(@1kHz)</b>	70 dB	入力ch間
	70 dB	入力ch-出力ch間*2
<b>マイク入力チャンネル(ch1~6)</b>		
GAINコントロール	44 dB(-60~-16)	連続可変
PADスイッチ	0/20 dB	切換え(ch3~6)
イコライザー特性	最大可変幅 ±15 dB	
	HIGH 10 kHz*3	±1dB*3
	LOW 100 Hz*3	±1dB*3
ステレオ/モノ加切換え	ステレオ: I/F外 OFF, HPF ON	
	モノ加: I/F外 ON, HPF OFF	
	ステレオは緑色、モノ加はオレンジ色のインジケータが点灯	
ノイズゲート	ON/OFF	
<b>ソース入力チャンネル(ch1~3)</b>		
GAINコントロール	24 dB(-20~+4)	連続可変
A/B切換えスイッチ	Aは緑色、Bはオレンジ色のインジケータが点灯	

<b>BGM入力チャンネル</b>			
GAINコントロール	24 dB(-20~+4)	連続可変	
BGMミュート	AUTO/OFF切換え		
	AUTO: ソース1~3の信号入力力で自動ミュート		
	OFF: ソース4として機能		
<b>マイクコンプレッサー</b>	ON/OFF切換え		
	レシオとスレッシュホールド変更可		
<b>ソースミュート</b>	AUTO/OFF切換え		
	AUTO: マイク1、2の信号入力力で自動ミュート		
	ミュートレベル変更可		
<b>MAIN1イコライザー</b>			
最大可変幅	±15 dB		
	HIGH 10 kHz*3	±1dB*3	
	LOW 100 Hz*3	±1dB*3	
<b>シグナルインジケータ</b>			
	すべてのマイク入力チャンネルにある緑色のLED		
	マイク1以後の入力レベルがノイズゲートのスレッシュホールドレベルに到達すると点灯		
<b>コンプレッサーインジケータ</b>			
	コンプレッサー回路のオレンジ色のLED		
	コンプレッサーが働くと点灯		
<b>ソースミュートインジケータ</b>			
	ソースミュート回路の赤色のLED		
	ソース信号がミュートすると点灯		
<b>BGMミュートインジケータ</b>			
	BGMミュート回路の赤色のLED		
	BGM信号がミュートすると点灯		
<b>レベルメーター</b>			
	MAIN OUT 1/2の出力レベル表示 (ステレオ6素子表示)		
	"ピーク" はクリッピングレベルの3 dB手前で赤色点灯		
<b>EXTERNAL MIXER IN</b>			
	拡張ミキサー (EXMV1000) を接続		
Pin assign	1:+15 V	4:Effect bus	7:-15 V
	2:-15 V	5:GND	8:GND
	3: Mic bus	6:+15 V	9:GND
<b>ファントム電源</b>			供給されない
<b>オプション</b>			拡張マイク入力ユニットEXMV1000
<b>電源</b>			AC100 V、50/60 Hz
<b>消費電力</b>			40 W
<b>最大外形寸法(WxHxD)</b>			480 x 176 x 137.5 mm
<b>重量</b>			7.0 kg

\*1) @20 Hz~20 kHz、Rs=150 Ω、INPUT GAIN=MAX、INPUT PAD=0 dB @12.7 kHz、-6 dB/octのLPFにて補正

\*2) ソース入力チャンネルとBGM入力チャンネルはGAINがminimum

\*3) ターンオーバー/ロールオフ周波数:

最大可変幅に対し3 dB下がった (±12 dB) ポイント

● 0 dB = 0.775 Vr.m.s

## ■コントロール

マイク入力チャンネル(ch1~6)	
PAD	0/20 dB切換え(ch3~6)
GAIN	-16~-60
イコライザー	(HIGH,LOW)
NOISE GATE	ON/OFF
SPEECH/VOCAL フェーダー	スピーチ/ボーカル
マイクバスコントロール	
コンプレッサー	ON/OFF、レシオとスレッショルド
ソース入力チャンネル(ch1~3)	
A/B入力切換え	ビデオ選択ch3
GAIN	+4~-20
フェーダー	
BGM入力チャンネル	
GAIN	+4~-20
フェーダー	
BGMミュート	AUTO/OFF

ソースバスコントロール	
ソースミュート	AUTO/OFFとレベル
エコー	
レベル	
選択肢	妨材1、妨材2、ホップス、ホム
マスターコントロール	
イコライザー	ステレオイコライザー(HIGH,LOW)
主出力1	ステレオフィーダー
	ステレオ/モノラル選択
主出力2	ステレオフィーダー
	ステレオ/モノラル選択
	MIX(MIX+SOURCE)/SOURCE選択
モノ出力1	フェーダー
	PRE/POST選択
モノ出力2	レベル
モニター	レベル
	外部入力/ソース1/ソース2/主出力1
メーター	主出力1/主出力2
その他	電源

## ■ 入力仕様

入力端子	PAD*2	GAIN	入力インピーダンス	ソースインピーダンス	感度*1 (最大ゲイン)	入力レベル		使用コネクタ
						規定レベル	最大 ノンクリップ レベル	
マイク入力 CH1~6	0	-60	10 kΩ	50~600 Ωマイク & 600 Ωライン	-80 dB (0.078 mV)	-60 dB (0.775 mV)	-40 dB (7.75 mV)	XLR-3-31タイプ (バランス型) & ホンジャック(TRS) (バランス型)
	0	-16			-36 dB (12.3 mV)	-16 dB (123 mV)	+4 dB (1.23 V)	
	20				-16 dB (123 mV)	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.3 V)	
ソース入力A,B CH1~3(L,R)		-20	10 kΩ	600 Ωライン	-40 dB (7.75 mV)	-20 dB (77.5 mV)	0 dB (775 mV)	RCAピンジャック
		+4			-16 dB (123 mV)	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.3 V)	
BGM入力(L,R)		-20			RCAピンジャック	-40 dB (7.75 mV)	-20 dB (77.5 mV)	0 dB (775 mV)
		+4				-16 dB (123 mV)	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.3 V)
SUB IN MAIN(L,R)			10 kΩ	600 Ωライン	-10 dB (245 mV)	0 dB (775 mV)	+20 dB (7.75 V)	ホンジャック (アンバランス型)
SUB IN MIC					-10 dB (245 mV)	0 dB (775 mV)	+20 dB (7.75 V)	ホンジャック (アンバランス型)
SUB IN EFFECT					-10 dB (245 mV)	0 dB (775 mV)	+20 dB (7.75 V)	Dsub9PIN(FEMALE)*3
EXTERNAL MONITOR IN					-6 dB (388 mV)	0 dB (775 mV)	+20 dB (7.75 V)	ホンジャック (アンバランス型)
VIDEO IN(SOURCE3 A/B)			75 Ω	75 Ω	-	1 Vpp	-	RCAピンジャック

\*1) 感度は、すべてのフェーダーとレベルコントロールとを最大位置に設定した状態で、規定レベル (+4 dB = 1.23 V) を得るために必要な入力レベルです。

\*2) マイク入力PADによりワイヤレスマイクロホンを利用できます。(ch3~6)

\*3) Dsub9PINコネクタは、マイクロホンとエフェクトのサブ入力および電源供給を含みます。

● 0 dB = 0.775 Vr.m.s

## ■ 出力仕様

出力端子	出力インピーダンス	負荷インピーダンス	出力レベル		使用コネクタ
			規定レベル	最大 ノンクリップ レベル	
MAIN OUT 1,2 [L,R]	150 Ω	600 Ωライン	+4 dB (1.23 V)	+24 dB (12.3 V)	XLR-3-32タイプ (バランス型)
MONO OUT 1,2	600 Ω	10k Ωライン	+4 dB (1.23 V)	+20 dB (7.75 V)	ホンジャック (アンバランス型)
MONITOR OUT [L,R]	600 Ω	10k Ωライン	+4 dB (1.23 V)	+20 dB (7.75 V)	ホンジャック (アンバランス型)
REC OUT [L,R]	600 Ω	47 kΩライン	-10 dB (245 mV)	+6 dB (1.55 V)	RCAピンジャック
PHONES	100 Ω	8 Ωヘッドホン	1 mW	20 mW	ステレオホンジャック
		40 Ωヘッドホン	3 mW	75 mW	
VIDEO OUT [SOURCE3]	75 Ω	75 Ω	1 Vpp	-	RCAピンジャック

● 0 dB = 0.775 Vr.m.s



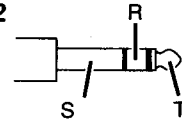
■コネクターの極性

・MIC1~4



Pin 1 : グランド  
Pin 2 : ホット (+)  
Pin 3 : コールド (-)

・マイク1 2



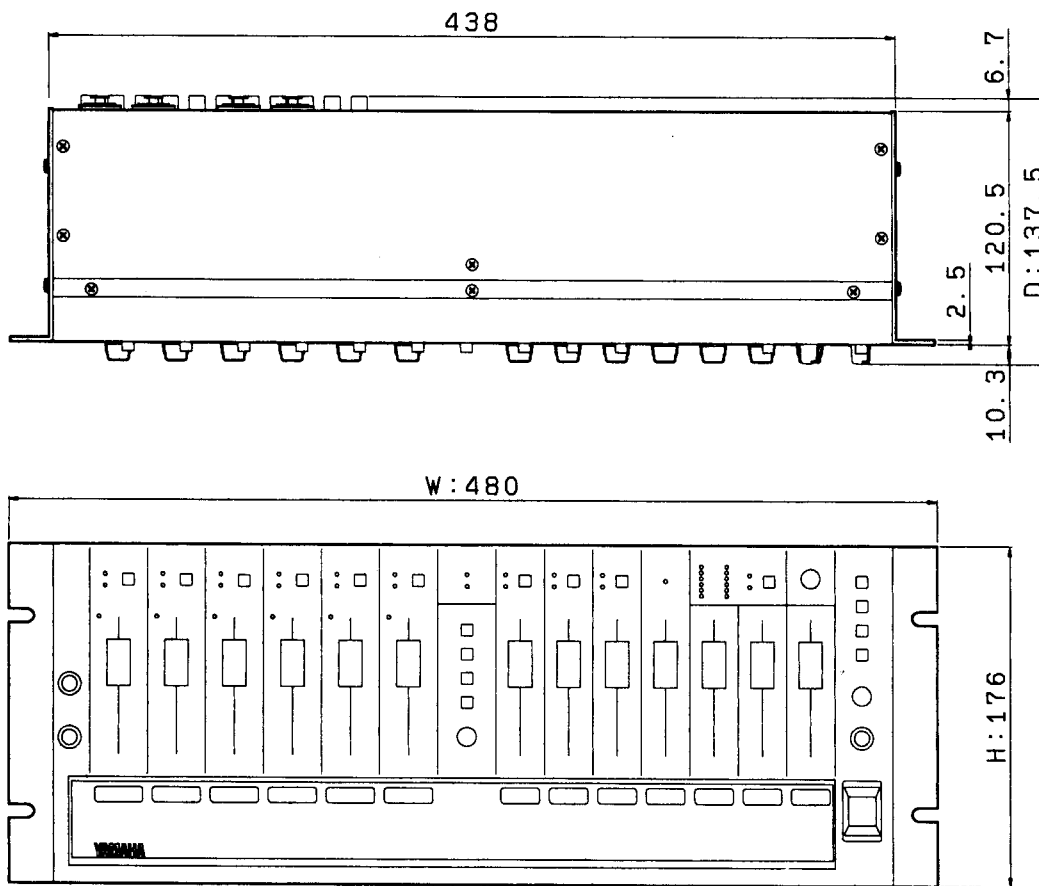
T : ホット (+)  
R : コールド (-)  
S : グランド

・MAIN OUT  
1, 2



Pin 1 : グランド  
Pin 2 : ホット (+)  
Pin 3 : コールド (-)

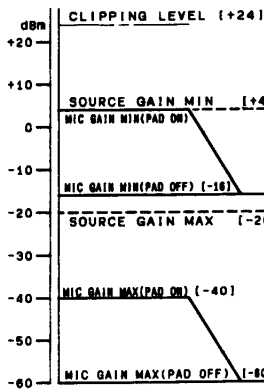
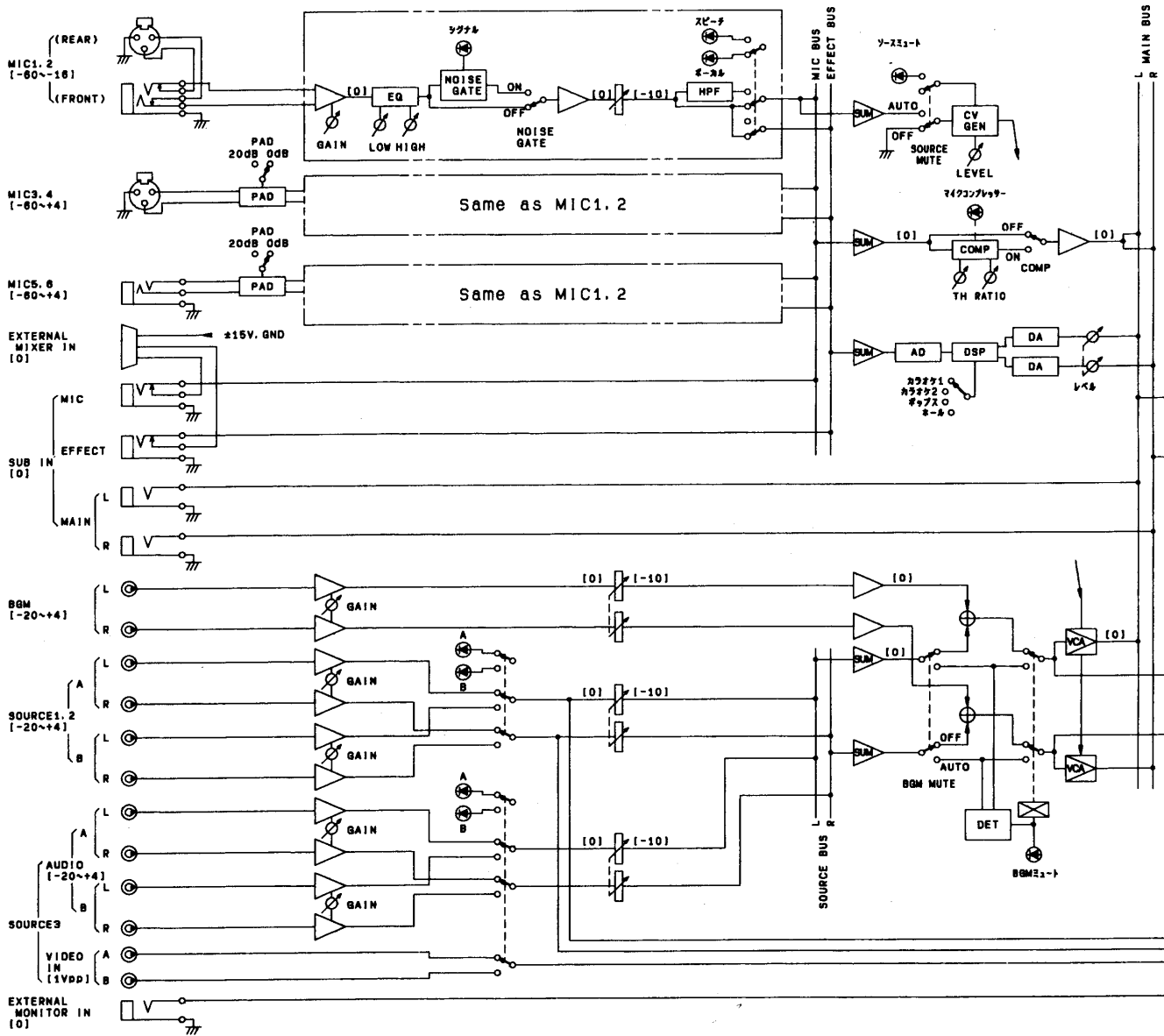
■寸法図

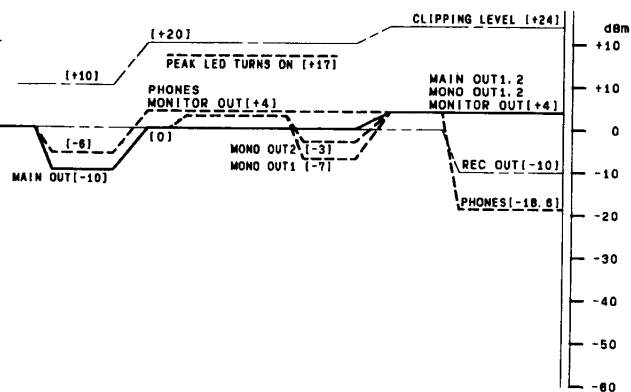
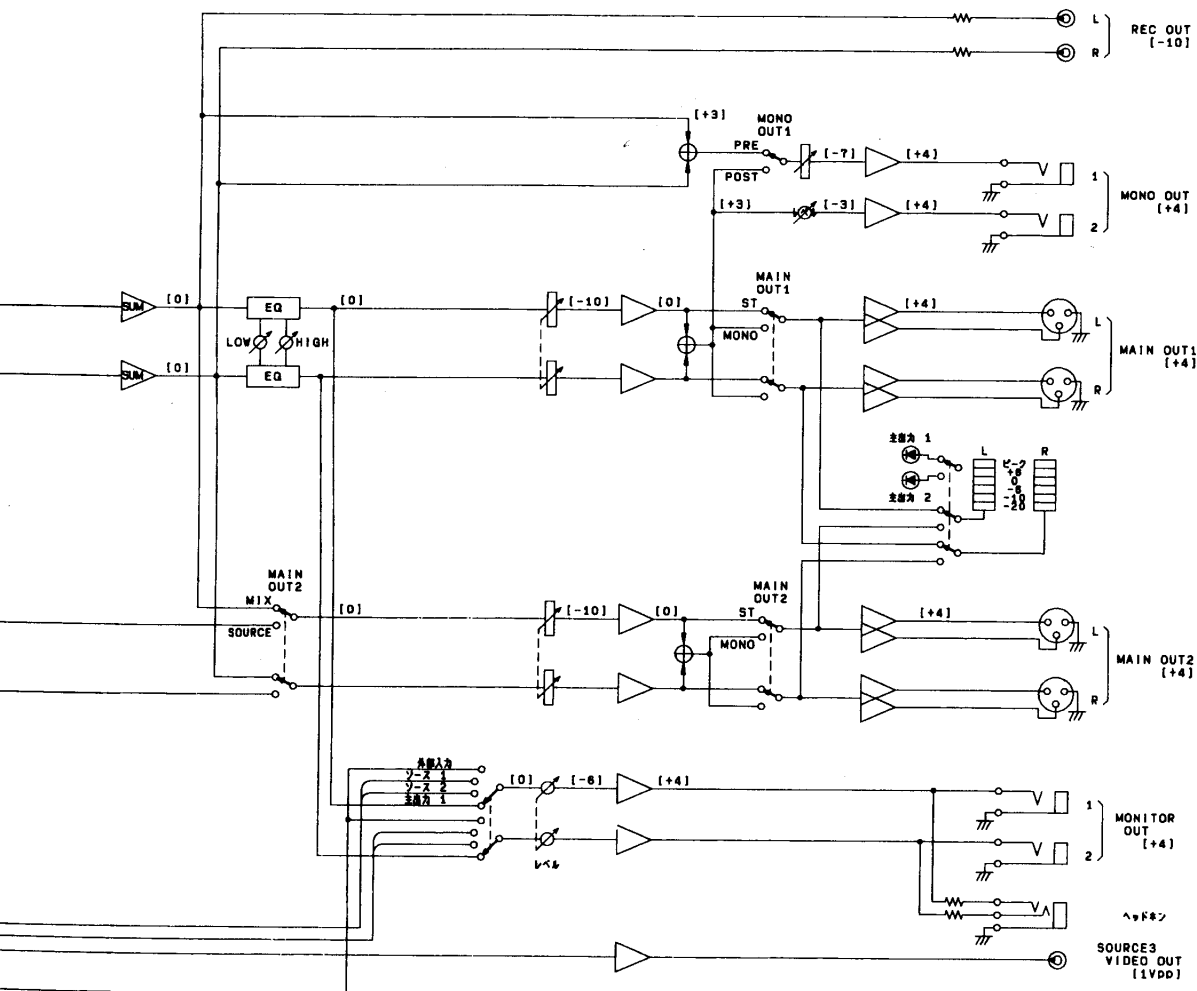


単位 : mm

•仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ブロック&レベルダイアグラム





# サービスについて

## ■保証書

この商品には保証書がついています。販売店でお渡ししていますから、ご住所・お名前・お買上げ年月日・販売店名など所定事項の記入および記載内容をおたしかめのうえ、大切に保管してください。

保証書は当社がお客様に保証期間内の無償サービスをお約束するもので、この商品の保証期間はお買上げ日より1年です。

保証期間内の転居や、ご贈答用に購入された場合などで、記載事項の変更が必要なときは、事前・事後を問わずお買上げ販売店かお客様ご相談窓口、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご連絡ください。継続してサービスできるように手配いたします。

## ■損害に対する責任

この商品（搭載プログラムを含む）の使用または使用不能により、お客様に生じた損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、その他の特別損失や逸失利益）については、当社は一切その責任を負わないものとします。また、如何なる場合でも、当社が負担する損害賠償額は、お客様がお支払になったこの商品の代価相当額をもって、その上限とします。

## ■調整・故障の修理

「故障かな？」と思われる症状のときは、この説明書をもう一度よくお読みになり、電源・接続・操作などをおたしかめください。それでもなお改善されないときには、お買上げ販売店へご連絡ください。調整・修理いたします。

調整・修理にさいしては保証書をご用意ください。保証規定により、調整・修理サービスをいたします。また、故障した製品をお持ちいただくか、サービスにお伺いするのも保証書に書かれています。

修理サービスは保証期間が過ぎた後も引き続きおこなわれ、そのための補修用性能部品が用意されています。性能部品とは製品の機能を維持するために不可欠な部品のことをい、PA製品ではその最低保有期間は製造打切後8年です。この期間は経済産業省の指導によるものです。

## ■お客様ご相談窓口

ヤマハPA製品にかんするご質問・ご相談は下記のお客様ご相談窓口へ、アフターサービスについてのお問い合わせはヤマハ電気音響製品サービス拠点へおよせください。

### ●お客様ご相談窓口：ヤマハプロオーディオ製品に対するお問合せ窓口

ヤマハ・プロオーディオ・インフォメーションセンター

Tel: 03-5791-7678 Fax: 03-5488-5085（電話受付=祝祭日を除く月～金/11:00～19:00）

E-mail: painfo@post.yamaha.co.jp

## ●営業窓口

### PA営業部

北海道営業所	☎ 011-512-6106	〒064-0810	札幌市中央区南十条西1-1-50
仙台営業所	☎ 022-222-6214	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10
東京事業所	☎ 03-5488-5480	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
名古屋営業所	☎ 052-232-5744	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28
大阪事業所	☎ 06-6647-8359	〒556-0011	大阪市浪速区難波中1-13-17
九州営業所	☎ 092-412-5556	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4
PA営業課	☎ 03-5488-5472	〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11
PA推進室	☎ 053-460-2455	〒430-8650	浜松市中沢町10-1

## ●ヤマハ電気音響製品サービス拠点：修理受付および修理品お預かり窓口

北海道サービスステーション	☎ 011-512-6108	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50	ヤマハセンター内
仙台サービスステーション	☎ 022-236-0249	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7	仙台卸商共同配送センター 3F
首都圏サービスセンター	☎ 03-5762-2121	〒143-0006	東京都大田区平和島2-1-1	京阪トラックターミナル14号棟 A-5F
浜松サービスステーション	☎ 053-465-6711	〒435-0016	浜松市和田町200	ヤマハ(株)和田工場6号館2階
名古屋サービスセンター	☎ 052-652-2230	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2	ヤマハ(株)名古屋流通センター 3F
大阪サービスセンター	☎ 06-6877-5262	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内
四国サービスステーション	☎ 087-822-3045	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸 高松店内
広島サービスステーション	☎ 082-874-3787	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	
九州サービスステーション	☎ 092-472-2134	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	
本社/CSセンター	☎ 053-465-1158	〒435-0016	浜松市和田町200	ヤマハ(株)和田工場6号館2階

※所在地・電話番号などは変更されることがあります。

※2001年5月現在